

第18回 記者懇談会実施要項

- 1 開催日時 平成12年3月9日 (木)
午後3時から
- 2 場 所 100周年記念会館第2会議室
- 3 懇談内容
 - (1) 若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表 (15時~15時40分)
 - 総合情報学部教授 上島 紳一
研究テーマ「柔らかな情報ベースをつくる」
(資料1)
 - 工学部専任講師 林 順一
研究テーマ「食品廃棄物を原料とした
活性炭の製造」 (資料2)
 - (2) 学内情報 (15時40分~16時10分)
 - ① 法科大学院設置準備委員会の設置について
 - ② 大阪府内大学学長会について
 - ③ 2000年度入学試験結果について (資料3)
 - ④ 卒業式・入学式挙行について (資料4)
 - ⑤ 新入生歓迎特別行事について (資料5)
 - ⑥ '00 スプリングフェスティバル (資料6)
 - (7) その他
 - (3) 情報交換 (16時10分~16時30分)
- 4 関西大学の出席者
石川 啓 学長
川道麟太郎 広報委員会委員長
浦上 忠 教学部長代理
上島 紳一 総合情報学部教授
林 順一 工学部専任講師
竹下 賢 法学部長
荒木紀忠 広報課長
- 5 配布資料
 - ① 『通信』第278号(2月号)

柔らかな情報ベースをつくる

関西大学総合情報学部 上島 紳一

本格的な高度情報化社会の到来を迎えて、私たちが研究対象としている「情報の格納庫」においても、格納すべきデータやコンテンツの多様化、また、これらの情報の利用形態の変容に伴い、柔軟な構造を持つシステムが要求されています。

ここでは、私たちが研究開発を試みている情報ベースとして、(1) 利用者の視点から構造を自在に構成できる情報ベース、(2) 人文科学研究支援を目的とした柔軟なシステム、(3) プライベート仮想ライブラリとして超高速ネットワーク上で情報を個人用にカスタマイズして利用するシステム、などについて紹介し、応用領域とともに話す予定です。



うましま しんいち
上島 紳一

教授

1955年生まれ。北野高校から京都大学工学部数理工学科に進み、83年に博士課程単位取得。以後研究生として研鑽をかさね、86年、京都大学工学博士の学位を取得された。86年に本学文学部専任講師、同助教授を経て94年に総合情報学部教授。専門は、現代制御理論、情報科学などの領域におけるシステムのモデリング理論で、特にモデルの構成的、段階的実現に興味を持たれている。85年日本自動制御協会、榎木記念賞論文賞を受賞。また、文学部在任中に多くの人文科学研究者との議論を通して新しいデータモデルを用いた研究支援システムを構想され、共同研究組織を作ってシステムの設計・開発を試みておられる。

本学東西学術研究所研究員、情報処理センター所員。趣味はスキー、ピアノ演奏。ジャズ、特にオスカー・ピーターソンのファン。見合後熱烈な恋愛関係になったという夫人との間に三女あり、女性4人に囲まれた家庭生活を楽しんでおられる。

食品廃棄物を原料とした活性炭の製造

関西大学工学部化学工学科 林 順一

現在、日本では非常に大量の食品廃棄物が排出されている。その一部は直接食用、乾燥後飼料として利用されているが、食生活の変化、安価な輸入飼料の利用拡大などにより、その需要は減少している。そこで、食品廃棄物の有効利用についての研究が要請されている。

有効利用法のひとつとして、食品廃棄物を原料とした活性炭の製造を試みた。活性炭は、古くから化学、医薬品、食品工業に用いられている。最近では、環境汚染防止のためにその需要は増している。

我々の研究室では、『おから』などの食品廃棄物を原料とし、従来とは異なり、炭酸カリウムを用いた薬品賦活法によって、通常の活性炭と比べて2～3倍程度の大きな表面積を有する活性炭の製造に成功した。また、使用された炭酸カリウムは、回収、再使用することが可能であると考えられた。製造された活性炭は、通常の活性炭と比較して、ベンゼンなどの有機溶剤蒸気、農薬などの吸着特性に優れていた。



はやし じゅんいち
林 順一

専任講師

兵庫県神戸市出身。1987年3月京都大学工学部化学工学科卒業。大学院博士課程を経て92年4月より本学助手。93年5月“分子ふるい炭素と高炉用コークスの新規製造法に関する研究”で工学博士の学位を取得。現在、室山勝彦教授の下で多孔質固体材料の製造、藻類を用いたCO₂固定化に関する研究に取り組んでいる。

趣味は、旅行、サイクリング、歩くことなどで特に北海道へは学生時代から数えて20数回行っている。写真撮影もなかなかの腕前だとか……。

最近、学生時代のように連続して徹夜ができなくなったと体力の衰えを感じているそうである。